

～本当はイノシシを殺したくない～

「環境首都水俣」に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信

水俣高校機械科2年

2名

◎仮説

猪や鹿の増加、猟師さんの高齢化、減少により農作物への被害が増えてきているのではないかと、そこで私たちにも何かできないかと考え、猟師さんや環境の現状を知ると共に箱罠を製作しこの問題に対処していくことにした。

背景

1975年には、狩猟免許所持者は約52万人いた。だが、年々免許所持者は減少し2015年には約19万人。それに対し1975年のイノシシ狩猟数は約6.2万頭、2015年には約16.6万頭と年々増加している。

◎現状

- ・イノシシ、シカによる収穫期の水稻の食害
 - ・シカによる牧場内の飼料作物への被害
 - ・シカが車両と衝突
 - ・住宅地への侵入
- などの農作物、生活環境どちらにも被害が及んでいる。

箱罠とは餌などでおびき寄せ、害獣を捕獲するわなである。従来のものは、重く持ち運び困難（トラック運搬）

軽量化+強度UP
機械科で設計

- ・ワゴン車で運べる
- ・二人で持てる
- ・丈夫
- ・何度も使える



◎設置状況



水俣市深川

水俣市白浜町

設置場所

- ・周辺に柿や栗が落ちている
- ・付近に畑がある
- ・山への出入り口
- ・畑に侵入され、荒らされた所
- ・民家や団地のすぐ横

◎水俣の森林の現状

山の手入れが行き届いていないため、猪や鹿の隠れ場や餌場が人家の近くに多くある。また、放置された老木や台風被害などの倒木は二酸化炭素を排出するため、二酸化炭素の影響で地球温暖化が進む。すると冬をこせる固体が増え、また餌の栄養価が高く、繁殖数も増加している。それらに対処するには、いのしし等の数を減らすと共に水俣の現状を知ってもらうこと、山の手入れを行き届かせることが重要だとわかった。

そうすることで、**無駄な殺生**をなくしていく。

◎結果と今後の展望

- ・9月から11月11日までに、9頭の幼獣（うり坊）を捕獲した。
- ・水俣のいのしし等の被害の現状、猪、鹿等が増えた理由や水俣の環境について知ることができた。
- ・今後は建築コースと連携し、水俣の現状を発信することで、市民に知ってもらい、水俣の自然環境に目を向けてもらい、環境問題に関心も持ってもらおう。
- ・さらなる軽量化および強度向上と警戒心を減らす工夫と、電気コースと共同でセンサーの開発を目指す。